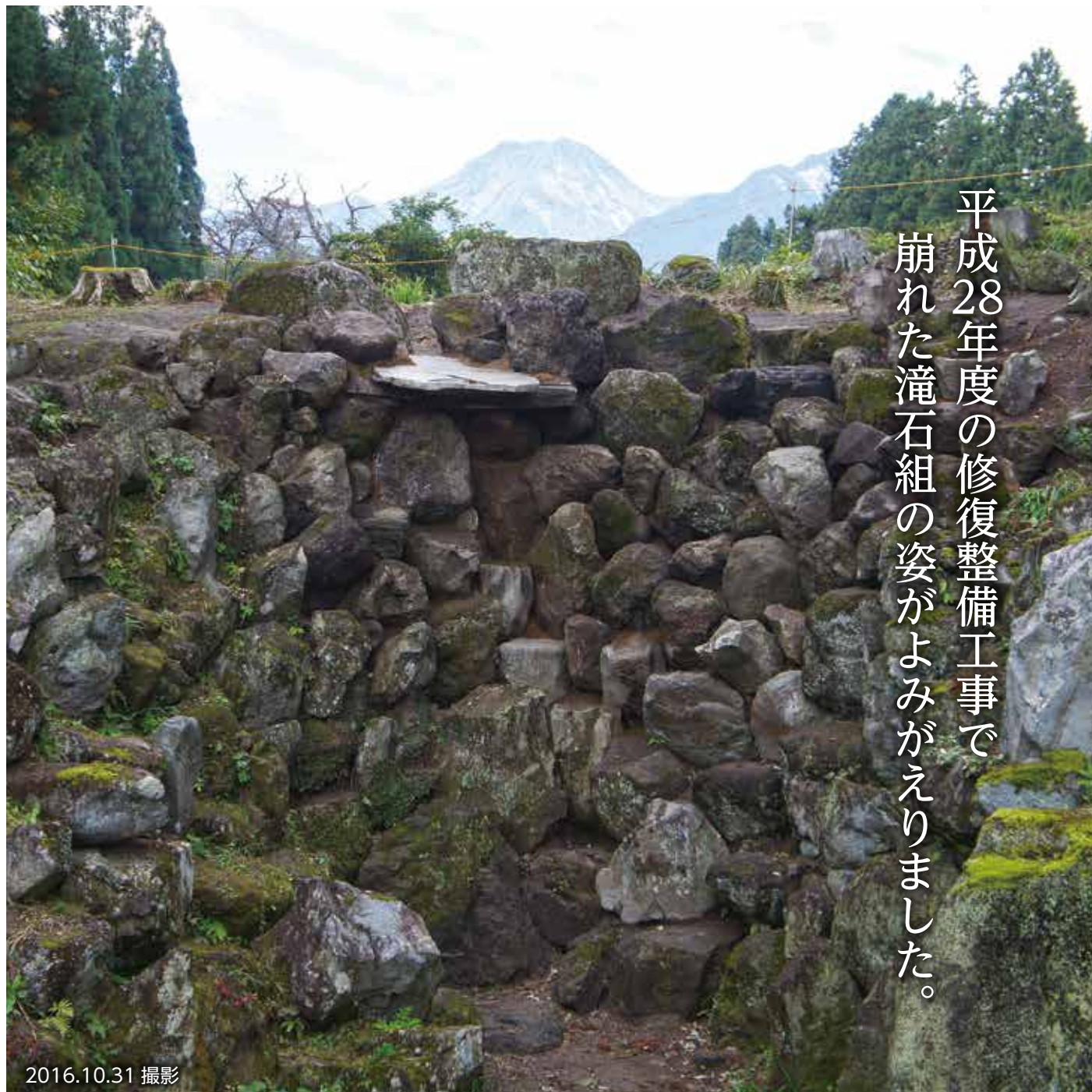


# 名勝 旧関山宝蔵院庭園

平成 28 年度の修復整備の概要



平成28年度の修復整備工事で崩れた滝石組の姿がよみがえりました。

2016.10.31 撮影

修復整備事業を始めて2年目となる平成28年度は、庭園の正面に位置する崩れた滝石組の解体・積み直し工事を行い、高い滝石組と妙高山を対比したかつての庭園景観を再現しました。

新潟県 妙高市

## 滝石組修復までの流れ



### 〔修復に至る経緯〕

江戸時代を通して整備され、明治時代に入ってから廃園となった本庭園は、長年の風雪等の影響で石組の崩壊が進んでいました。

滝石組の上部は大きく崩れ、滝口の付近に板状の石が少し残っていましたが、かつてどのような形で滝水が流れ落ちていたのかはわからない状態でした。

平成 24 年の豪雪で滝口はさらに崩れ、支柱で固定しないと危険な状態になりました。平成 25 年 3 月に国の名勝に指定されたことを契機に、本格的な修復整備事業が始まりました。



### 〔解体工事〕

平成 28 年度は、大規模な崩落が懸念される滝石組の修復を行いました。

まず滝壺に転落した石を全て取り上げ、支柱を外しながら崩れた部分の石を解体しました。この過程で、江戸時代の後半に簡易的に補修された部分が再び崩れ出していることがわかりました。

さらに解体を進めながら崩落前の滝石組の姿を検討した結果、滝口に差し込まれた状態で残っていた板石の上に、滝壺に転落していた板石が乗っていた可能性が高まりました。



### 〔積み直し工事〕

積み直し工事では、本来の石組で用いられていた「石を縦方向に差し込むように積み上げる工法」を採用しました。解体した石を元の場所に戻すことを基本としつつ、新たに調達した石を組み合わせながら崩れにくい構造になるように積み直しました。

また、石組に対する背後からの圧力を軽減するために、石組の裏側が土砂で目詰まりしないように透水シートを敷き、水を抜くための裏込め石（栗石）を入れました。



### 〔滝口の修復〕

滝口の復元は、一度解体した板石を元の位置に戻すところから始めました。

現地に残る板石だけでは安定しないため、戻した板石の隣に新規で購入した板石（鉄平石）を置き、その上にさらに別の板石（鉄平石）を水落とし石として乗せました。

解体の際に滝壺において滝水を受けたとみられる平らな石が見つかったため、3 枚の板石は、この石の上に水が落ちるように位置や傾きを調整して配置しました。